



平成22年 3月24日  
独立行政法人国立科学博物館

### 日本の固有植物ホットスポット地図を作成

独立行政法人国立科学博物館(館長:近藤 信司)は、開館130周年記念研究プロジェクト「生物多様性ホットスポットの特定と形成に関する研究」の一環として、日本固有維管束植物のホットスポット地図を作成し、日本植物分類学会(3月27日、愛知教育大学)で研究発表を行います。

本プロジェクトでは、大量の生物の標本資料を用いて、国内の多様性ホットスポット(生物多様性が高く、優先的に保護すべき地域)を解明する研究を進めています。特定の地域に固有の維管束植物の存在はコンサベーション・インターナショナルによる世界のホットスポット選定基準になっています。

当館では、昨年、絶滅危惧植物ホットスポット地図を作成し、絶滅危惧植物の多い地域トップ10がどこにあるかが明らかになっています。今回作成した地図は、日本固有維管束植物(約2400種類)の標本約17万点の分布を基に、約10km四方のメッシュ単位で固有種指数を集計したものです。得られた分布パターンは、絶滅危惧植物のホットスポット分布と比べると、違いがありながらも、一定の類似が見られました。両者の類似は日本の貴重な固有植物が危ういことを物語っています。さらに、固有種を、種子で殖える種子植物と胞子で殖えるシダ植物に分けますと、両者では全く異なるホットスポット分布パターンが見られます。このことから、未解析の生物についても生物群毎に異なったホットスポットが存在することが予想されます。これらのホットスポット地図は、研究対象として注目に値する地域や重点的に保全の対象とすべき地域を明らかにする効果的な基礎資料として、今後の活用が期待されます。

本結果に基づいて多様性の分布を表現した立体地図(「生物多様性地形図(維管束植物編)」)を、当館上野本館で開催される企画展「日本の生物多様性とその保全～生き物たちのバランスの中に生きる～」(会期:5月1日～7月19日)の会場内で展示予定です。

本件の詳細につきましては、以下にお問合せ下さい。よろしくお願い申し上げます。

#### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

【内容について】 担当研究員：海老原 淳(植物研究部陸上植物研究グループ)

【画像提供問合せ先】 事業推進部 広報・サービス課 関根 則幸

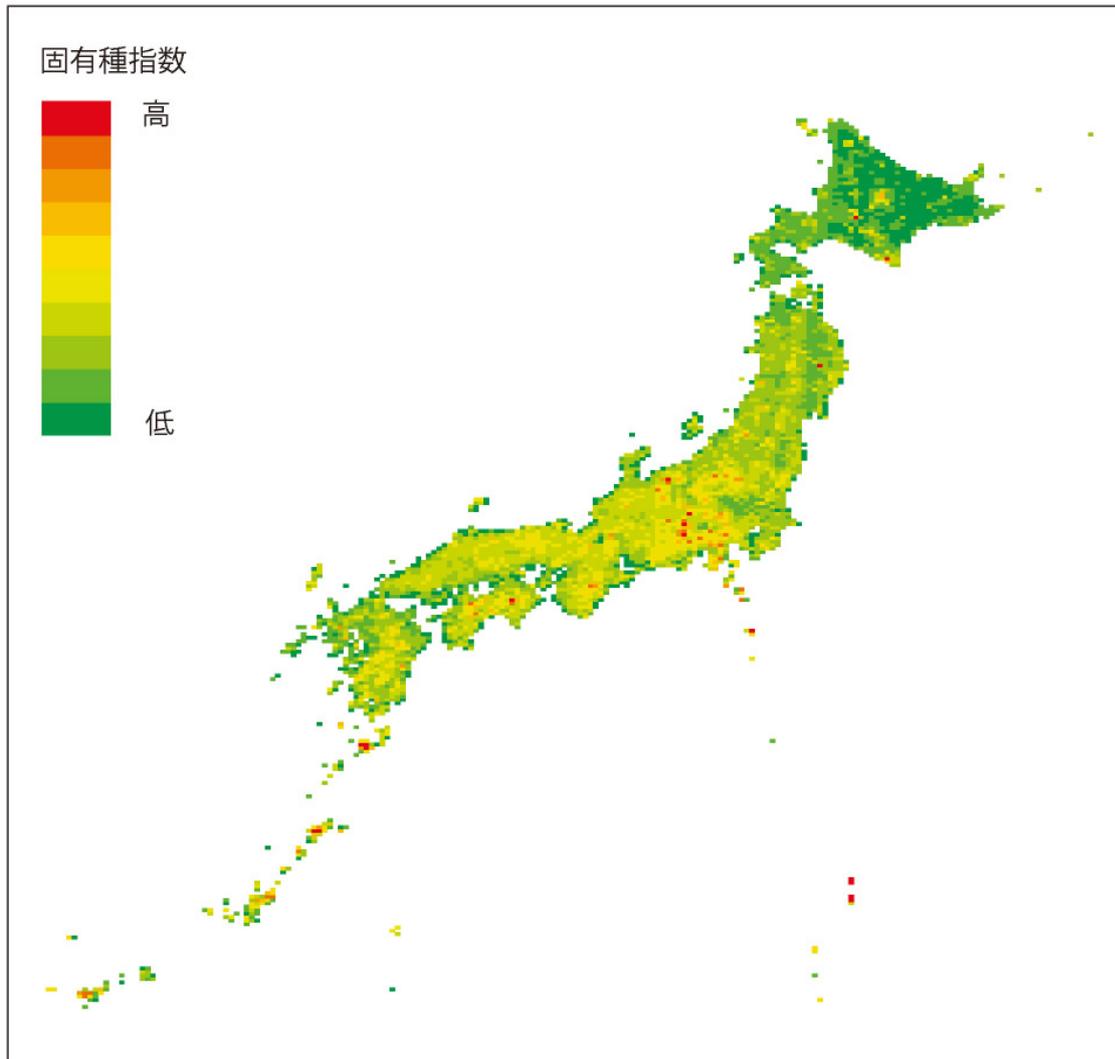
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

TEL:029-853-8988 FAX:029-853-8998

E-mail: [shuzai@kahaku.go.jp](mailto:shuzai@kahaku.go.jp) / [ebihara@kahaku.go.jp](mailto:ebihara@kahaku.go.jp)

国立科学博物館筑波実験植物園HP <http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

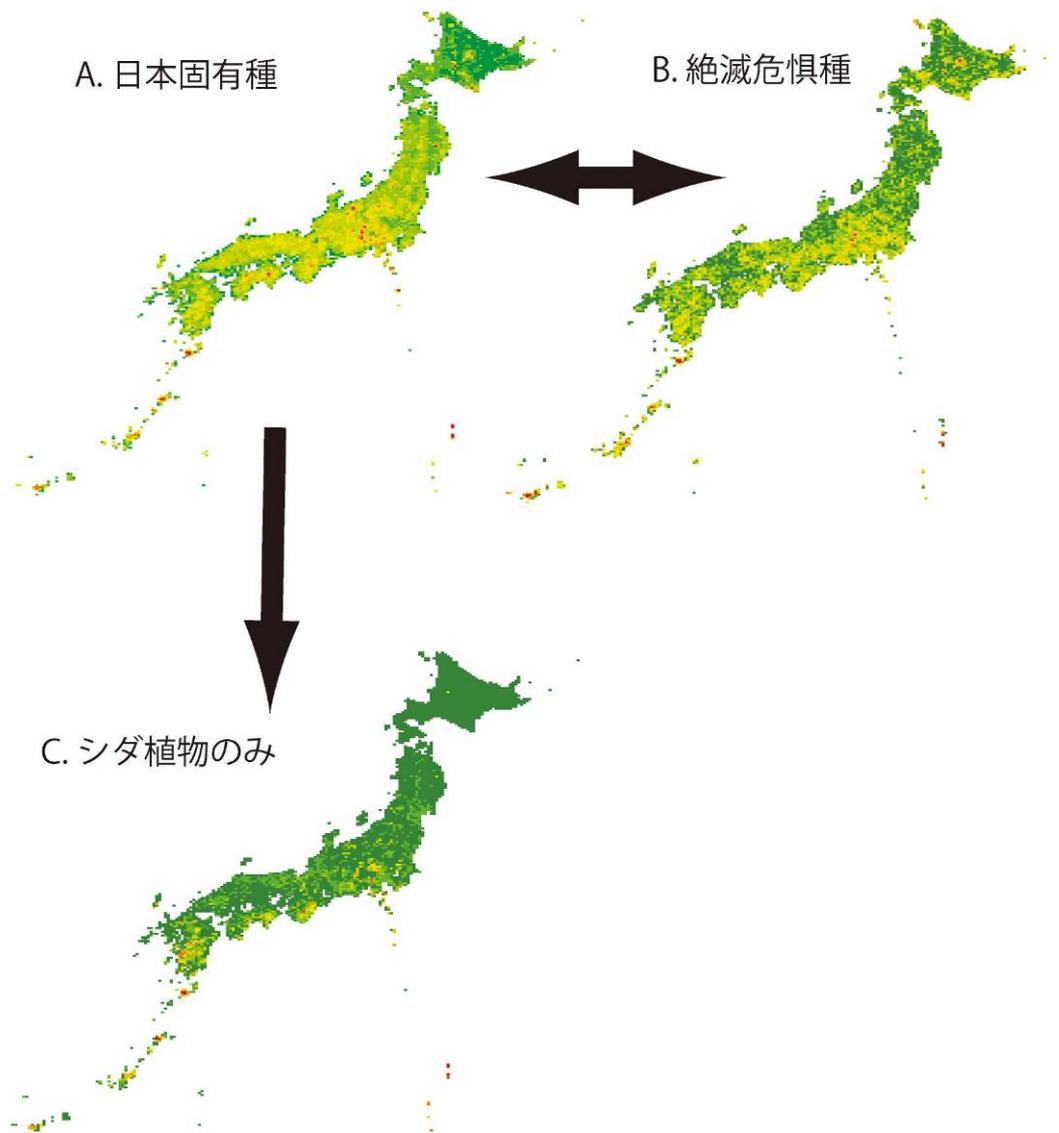
## 日本固有維管束植物のホットスポット地図



上位 10 地点 (当該メッシュに含まれる山または島の名前で示す)

1. 小笠原父島 (東京都)
2. 屋久島 (鹿児島県)
3. 小笠原母島 (東京都)
4. 奄美大島湯湾岳 (鹿児島県)
5. 夕張岳 (北海道)
6. 北岳 (山梨県)
7. アポイ岳 (北海道)
8. ハヶ岳 (山梨県・長野県)
9. 赤石岳 (長野県・静岡県)
10. 早池峰山 (岩手県)

日本固有維管束植物のホットスポット地図(比較)



維管束植物において、日本固有種のホットスポット(A)と絶滅危惧種のホットスポット(B)とを比較すると、一致する部分と、一致しない部分がある。

日本固有維管束植物(A)から、日本固有シダ植物(C)のみを取り出すと、大幅に異なるホットスポットのパターンが浮かび上がる。